



(来ちみなあハウス前で)

エコパークの地 豊後大野市と長谷地区を視察して

建設コンサルタツ協会九州支部の環境・都市等技術委員会では、このたび大分県豊後大野市をフィールドに現地見学会を平成29年11月17日～18日にかけて実施しました。豊後大野市では、ユネスコエコパークとジオパークの登録に至る経緯とその後の展開について学ぶ企画でした。

この企画の最後の視察先として長谷地区を訪れました。私は初めての訪問になります。

来ちみなあハウスでは、赤峰副会長、甲斐副会長、渡邊事務局長が出迎えてくださいました。当委員会と協働している共助研との関係の始まりから、現在の活動状況までをお話頂きました。

意見交換の印象としては「柴北川を愛する会」の皆様の高齢にわたる熱心な取り組みがあるからこそ、地域の人々の一体感と地域の美しい景観が保たれていることを強く感じました。

視察の最後には柴北川を見学して帰りました。私は河川環境に関することが日々の仕事ですので、大変きれいな川に目を奪われました。みなさんの河川愛護活動の賜だと思えます。会の運営には後継者問題があると伺いましたが、皆様の活動を見ている次世代がきっと引き継いでくれて、柴北川のきれいな流れと同様に、力強い活動が未来永劫に渡って引き継がれるだろうと思った次第です。

今回は視察・意見交換で寄らせて頂きましたので短時間の滞在でした。別れ際に「新年会があるからまた来てください、地酒を飲みに来てくださいね」とお声かけくださいました。この素敵な誘いの言葉に新年もきっとお邪魔することでしょう。

(環境・都市等技術委員会 委員長 和泉大作)

「私のコダワリ」トーク 第5回の予告

- 次回は、長谷出身の若者にトークしていただきます。
- 時期は、1月下旬～2月はじめ頃です。
- トーク後の「問う食うタイム」(懇親会)は、「柴北川を愛する会」の新年会と共に行う予定です。

来ちみなあ 12号

「来ちみなあ」は、柴北上の県道から北に入った山際にある「来ちみなあハウス」(和洋室5室、ダイニングキッチン、バス、トイレ付住宅)での活動を紹介する通信です。発行：「来ちみなあハウス」店子グループ

共助研からの伝言

「私のコダワリ」トークで、エコパークを学習。もっと知りたい!と、「新・ながたに探検隊」。

山の木々が一齐に紅葉で彩られた11月25日(土)に、年内最後の「私のコダワリ」トークを開催しました。トークのテーマは、「知ってほしい!ユネスコエコパーク」。市役所商工観光課の神志那さんに、祖母・傾山・大崩山系を取り巻く県南・宮崎県北地域で登録された「ユネスコエコパーク」について熱くトークしていただきました。

登録からまだ5か月と日が浅く、地域の皆さんの認知度はまだまだの中、フォトラリー(写真撮影で特産品ゲット)などのPRイベントも進行中。トーク後の「問う食うタイム」では、「先ず、市民が知らんといけん!」と参加者からもエール。エコパークを地域の宝物としていかに売り出すか、これからの活動で登録の真価が問われます。

さて、これまで4回のコダワリトークを通して、長谷地区に眠っているような宝物や資源が少しずつ顔を覗かせつつあるようです。そんな宝物のありかを、我々共助研の眼で探ってみようと言うことで、来年以降「新・ながたに探検隊」を編成することとしました。

四季折々の長谷の魅力を掘り出して、コダワリトーク等で地域のみなさんと共有していきます。時に、地域内を徘徊する怪しいオヤジ達を見かけても、くれぐれも石など投げつけなくて・・いただければ。

今年もお世話になりました。みなさん、良いお年を。(波木健一)

稲作だより

(みんなの田圃片付けの様子)

我が家から見える川向こうの山は、今(11月30日)が紅葉の真っ盛りで、毎日眺めながら自然の美しさを満喫しています。

このような四季折々の自然を感じながら、退職後は好きな農業に専念し、稲作を始め小麦、ゴーヤ、大豆、チジミほうれん草、落花生、カボスを栽培して来ました。

「柴北川を愛する会」には発足時から入会し、2010年に始めた稲作活動においてはその担当者となり、水田の管理に携わって参りました。

春の田植え、秋の稲刈りと、回を重ねる毎に参加者も多くなり、今年6月の田植えには地区内外から120名を超える参加をいただき、大変盛り上がりました。その時は、秋の稲刈りを楽しみにしていた方も多かったことと思います。

今年の夏はいつもの夏に比べ暑い日が多く、稲の生育も良く、豊作が期待されていました。しかし、9月17日の台風18号による豪雨で柴北川が増水して「みんなの田んぼ」も1.5m程度冠水し、稲の収穫が出来なくなりました。

(私の記憶では、10～15年に1度は柴北川が氾濫しているように思います)

その結果、皆が楽しみにしていた稲刈りイベントは残念ながら中止となりました。天候の為に延期したことは何度かありましたが、中止となったのは初めてのことで会員のショックは大変なものでした。

しかし、落ち込んでばかりはいられません。11月12日には、倒れた稲の片付けを会員10数名で行いました。稲藁の処理と流れ込んだ砂の搬出作業は年明けに行い、来年の田植えに備えたいと思います。

美しい姿を見せてくれる自然も、時にはこのように牙を剥くこともあり、自然の脅威の前では、いかに人は無力であるかを痛感させられた出来事でした。

(稲作班長 安藤邦男)

